

令和5年9月

# 大庭桂子 学位論文審査要旨

主査 鈴木 康 江  
副主査 山 崎 歩  
同 中 條 雅 美

## 主論文

Perspectives of nursing students on end-of-life nurse education: A qualitative study of the guided death experience

(終末期看護教育における看護学生の経験：死の疑似体験に関する質的研究)

(著者：大庭桂子、谷村千華、野口佳美、中條雅美、吉岡伸一)

令和5年 Nurse Education Today 126巻 105834

## 参考論文

1. わが国の救命領域における看護師のジレンマに関する文献検討

(著者：藤原華織、工藤里紗、川手あかり、野口佳美、大庭桂子)

令和3年 米子医学雑誌 72巻 45頁～53頁

# 学 位 論 文 要 旨

Perspectives of nursing students on end-of-life nurse education: A qualitative study of the guided death experience

(終末期看護教育における看護学生の経験：死の疑似体験に関する質的研究)

エンド・オブ・ライフ (EOL) の時期にある患者に質の高いケアを提供するために、その礎となる教育を行うことは、世界的にも重要な課題となっている。その一方、看護学生や新人看護師が死と感情に関わる実践的な経験に対処するための教育的サポートが不十分であることが報告されている。この課題に対するEOLケア教育の教育方法の一つとして「Guided Death Experience (死の疑似体験) 」(GDE) に焦点を当て、GDEにおける看護学生の経験を明らかにするとともに、EOLに関する基礎教育の中で行う意義を検討した。

## 方 法

2018年にA大学でEOLケアを主題とする科目受講した看護学科3年生82名がGDEに参加した。GDE終了後、参加者は自分の経験について振り返り、自由記述を行った。GDE後の参加者の記述を本研究に使用することについてオプトアウトにより、参加者に提示しデータ使用に対する承諾を得た。データ分析にはKrippendorffの内容分析アプローチを使用した。筆者らが全データを精読し、研究目的に関連する要素を抽出しコーディングし、コードの意味内容を解釈し、サブカテゴリ化を行った。サブカテゴリの類似性・相違性から、本質的な意味を表現する抽象度の高いカテゴリ化を行った。共同研究者間で、すべての分析結果を繰り返し確認するとともに、ピアデブリーフィングを行い、データ分析における信頼性と厳密性を確保した。

## 結 果

82名 (女性76名、男性6名) の参加者の記述内容に対して分析を行った。分析の結果、40のサブカテゴリ、11のカテゴリから、最終的に“死に逝く人の世界に身を置く主観的体験”と“EOLケアに関する看護観の形成”という中核となる2つのカテゴリが導かれた。前者は、「死が迫ったときの陰性感情」や「他者への否定的な感情」などのカテゴリが含まれ、GDEのプロセスにおいて看護学生が悲しみ、怒り、恐怖、抑うつといった自らの感情をありのままに表現した主観的体験に焦点を当てたものである。後者は「死に逝く人への

看護の必要性への認識」や「死に逝く人に対する医療従事者の姿勢が及ぼす影響についての認識」などのカテゴリが含まれ、GDEでの体験を通して、死に逝く人のニーズを考えること、対象者の声に耳を傾けること、死に逝く人のそばに居ることなど、EOLケアの本質を認識したことが表現されていた。

## 考 察

EOLケアに関する看護教育研究において、看護学生の一人称の死に関する疑似体験を報告した研究は希少である。GDEを導入し、疑似的にはあるが死に逝くプロセスの中で抱く感情や認知を体験的に学ぶことができるのは、本研究の強みであるといえる。

本研究において看護学生は、GDEでの自らの主観的体験に対する意味づけを行い、EOLケアの看護観の構築や心構えを形成している様相が捉えられた。臨床において、看護師は終末期ケアの中心的役割を担っているため、看護学生が卒業時に、この役割に備えることが不可欠である。しかし、先行研究では、多くの看護学生は、思いやりのある質の高い終末期ケアを提供する準備ができていないことが報告されている。その理由として「死を扱うことで引き起こされるネガティブな感情を避けたい」ことを示している。

GDEでの体験を通して、最期の時まで患者の価値観や希望を尊重すること、気持ちを理解し寄り添おうと努力すること、悔いなく安らかな最期の時間を過ごせるよう支援することなど、EOLにおいて患者のQuality of lifeを支えることの必要性に気づき、看護実践への強い意欲を表現していた。GDEは、看護学生が緩和ケアの基本概念（WHO、2002）を学ぶことを促通し、EOLケア実践に対する内発的動機づけに貢献する教育成果に繋がるのが期待できる。これらの結果は、先述の看護学生の終末期ケアに対する準備性において指摘されている課題を克服できる可能性を示唆するものである。

## 結 論

GDEにより看護学生は、死に逝く過程にある人の世界に身を置く主観的感情を体験し、EOLケアに関する看護観の構築を経験する。終末期看護教育においてGDEを教育方法として取り入れることは、看護学生に緩和ケアおよびEOLケアの中核的な看護観を育み、看護学生の臨床の終末期ケア実践に向けた準備教育として重要な手段であることが示唆された。